

■環境の世紀17■
—身近な環境をもっと“身近”に—

樹木がつくる景観

平成23年10月25日

下村彰男

農学生命科学研究科・森林科学専攻
森林風致計画学研究室

本日、話したいこと

1. 日々の営みと樹木(の景観)

- ・人は景観を通して得られた外界の情報をもとに行動する
- ・樹木は依拠する空間や景観を提供する

2. 「緑」に対する人々の認識

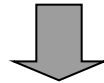
- ・「緑」を増やせばよい、植えればよいとの認識が強い
- しかし、不必要、不適切な植栽はマイナスに作用する

3. 場のコンテクスト(文脈)と樹木(植栽)

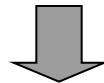
- ・多様な風景体験ができることに都市の魅力があり、各場所の性格に合わせ、その場らしくデザインすることが重要
- ・人々の豊かな活動の舞台としてデザインすることが重要

1. 日々の営みと樹木の景観

- 人は風景・景観を通して、外界（環境）の様々な情報を入手する



- その情報をもとに、規範等に則って行動する



- そうした行動の集積が、街の風景・景観を形成していく

下層植栽による印象の差異 (130周年事業)



イタリア・ランテ荘 (撮影: 白幡)



森林の状態(内部 景観)と印象

＊ 林床の状態、立木密度、
その他樹種等により、
受ける印象は異なる。

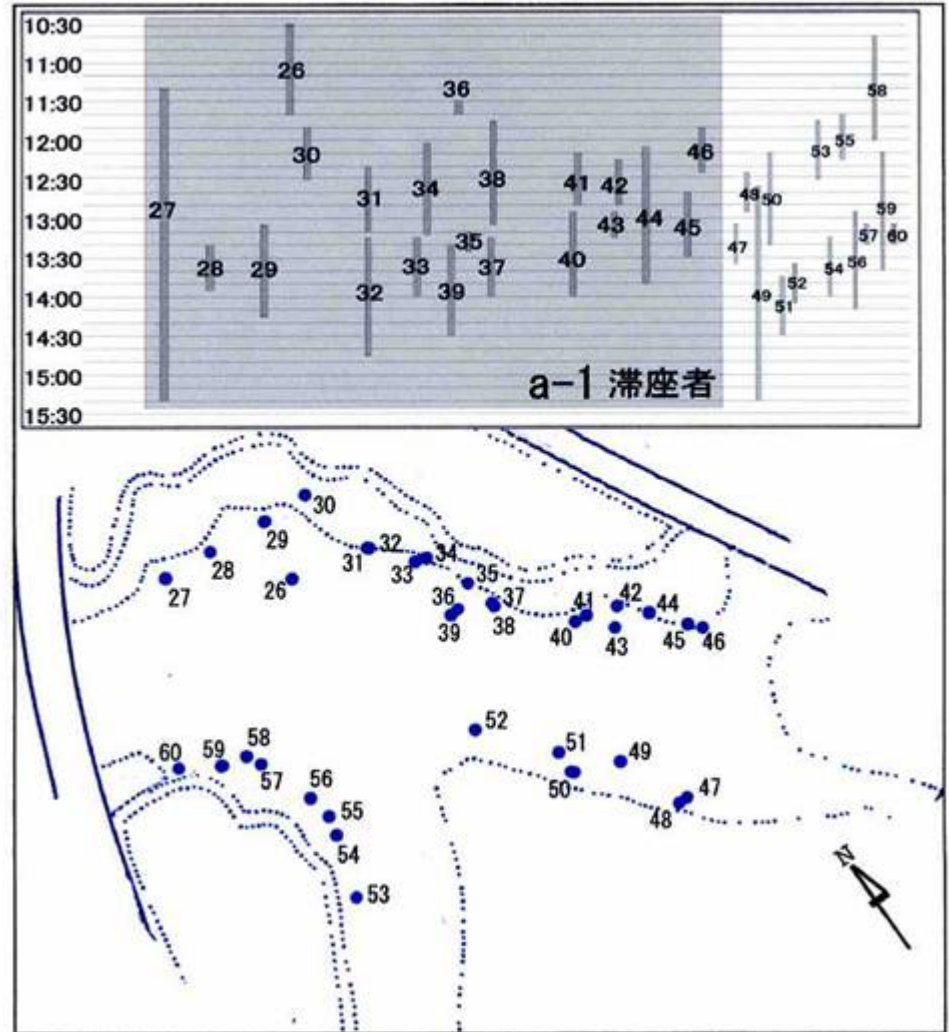


景観情報と人間の行動



樹木の存在と 滞座場所

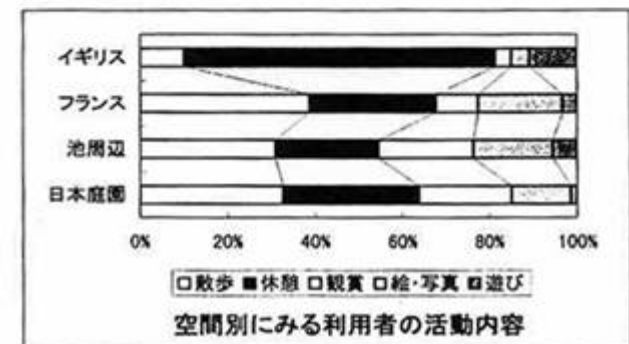
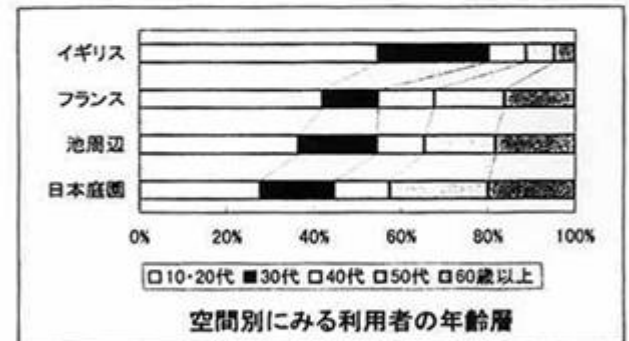
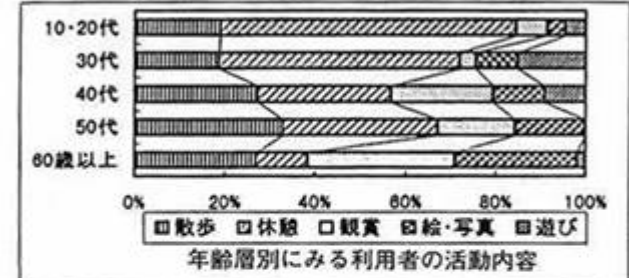
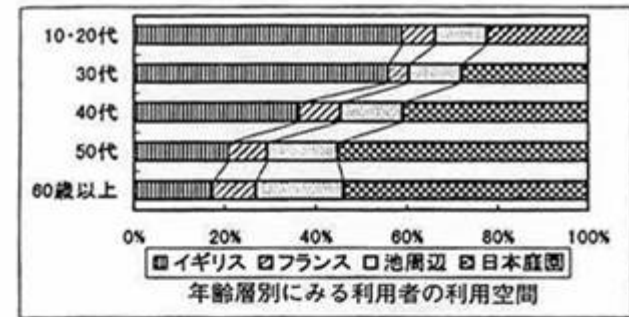
(資)瀬戸口真朗: 芝生広場における利用者の
滞座行動に関する考察, 2006



年齢層別空間選好



(資)山本真理:新宿御苑における中高年年齢層の利用実態と空間選好に関する研究, 1998

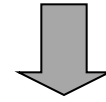


樹木(植栽)の効果

- 依拠性、安心感の付与
- 歴史性の付与
- 統一性の付与
- 季節性の付与
- 緑陰の提供

等

大地とのつながり



「依拠性」、「憩い・安心」
を感じさせる景観

(「空間」における定位)



場の歴史の 記憶、象徴

(「時間」の連続性: 定位)

鎮守の森、大木



都市景観への統一感の付与



京都白川沿いの景観

柳並木の葉の有無によって景観は一変する



季節
(≡時の流れ≡「自然」)
を認識させる植栽



緑陰の提供



2. 「緑」に対する人々の認識

「緑」や「山」の風景・景観に対する認識は十分とは言えない。

先進的な風景計画書の中において
さえ、直接的な形成目標ではない
場合には、「緑」の描き方は限られ
た表現となっている。



資料:「水郷風景計画(概要版), 近江八幡市

都市の植栽についても、そのあり方をよく考える必要がある

「緑」としか認識していなのは、都市においても同じ。
「緑」を増やせばよい、植えればよいと考える人は多い。
しかし、マイナス効果の植栽も少なくない。



不必要な植栽

植栽による障害物
設置の誘発

低木植栽による河川(堀)
との距離感の生成



場の性格と不整合な植栽もある



都市における
河川中流域の景観



駅前(都市の顔)における
不揃い(非整形)の植栽



管理にも十分な配
慮が必要である



樹形によって創出する空間の性格は異なる



植え方によっても空間は異なる (東大構内イチョウ並木各種)



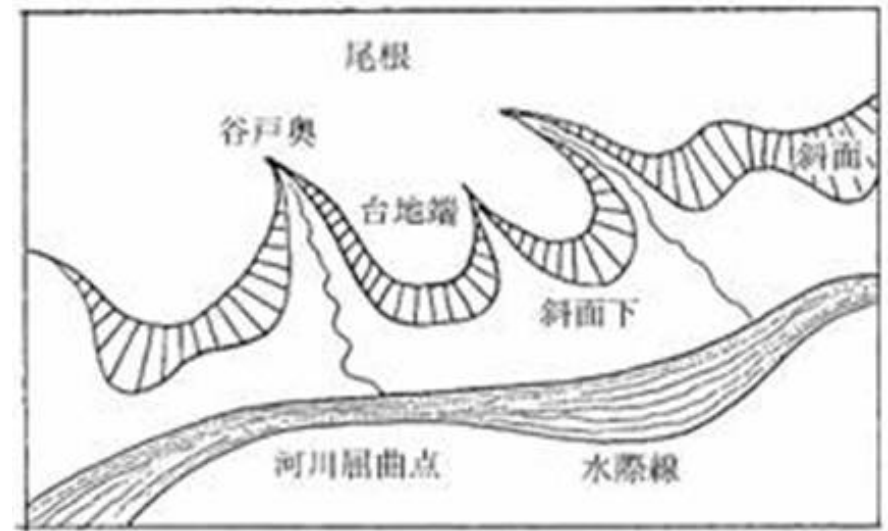
3. 場のコンテキスト(文脈)と植栽

人々に場のコンテキスト(文脈、性格)を認識させる植栽が基本である。

場の自然、歴史、それらが生む個性

区 分	空 間	時 間
生態的コンテキスト (都市の存立基盤としての 様々な自然条件)	地形・水系 生態系 etc.	季節, 昼夜 etc.
都市的コンテキスト (都市生活者の様々な営 みや活動の表現形)	格, スケール, 土地利用 etc.	場の歴史 etc.

地形や水系を 認識させる植栽



兵庫県・西宮市夙川



文京区・根津神社

【参考：江戸時代】 景園地（名所）の立地

- 名所の多くは、台地端や水際部など地形の変曲点に立地していた。

（環境、景観の多様性）



資料：樋口忠彦 「日本の景観」

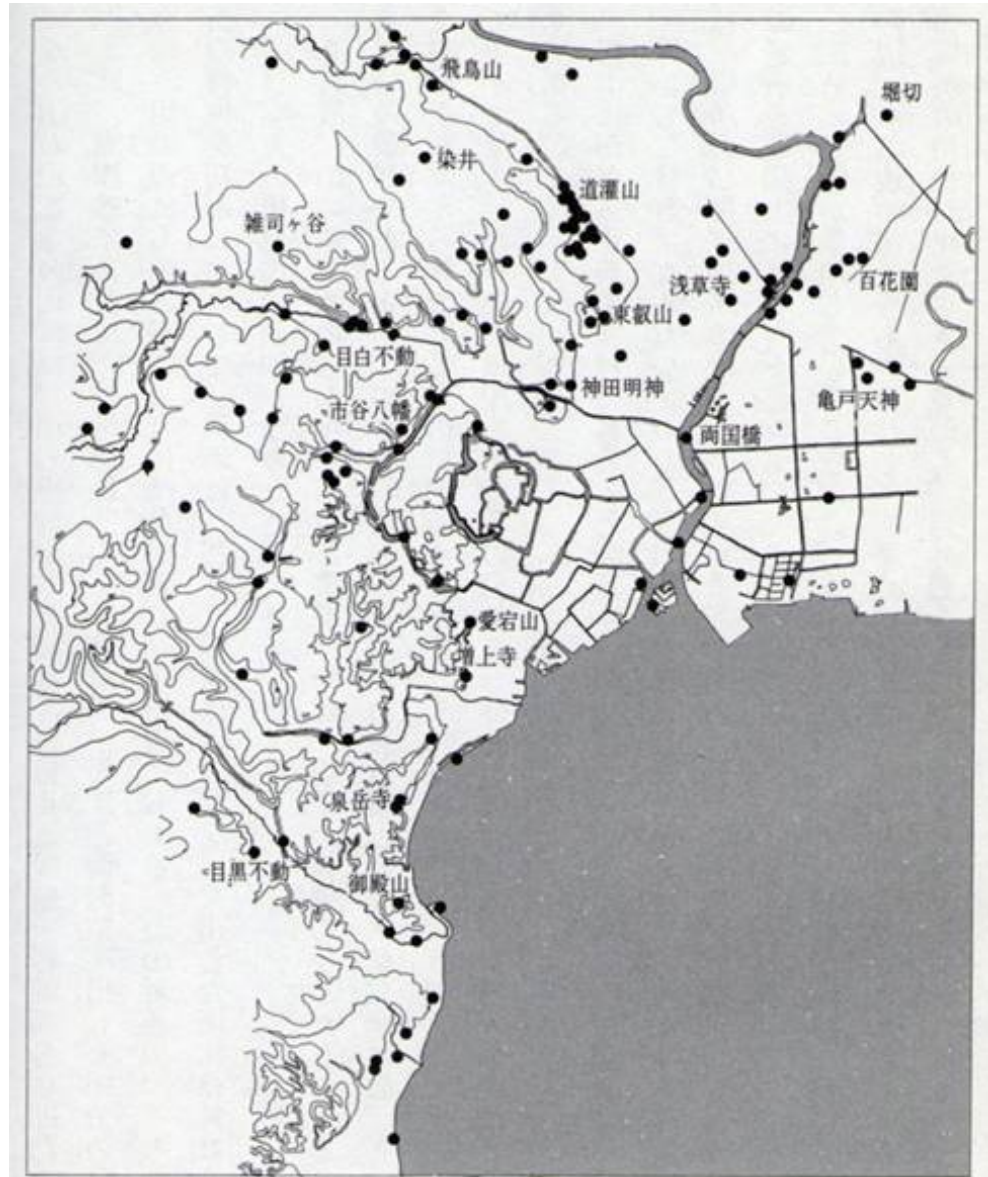


図 50 江戸名所花暦（文政10年）と東都歳時記（天保9年）の記す四季の名所（協力－横山隆二郎・杉山公彦両氏）

人々の楽しみ方と 景園地の立地

- ・江戸の人々は、四季折々に、季節の自然（景物）とのふれ合いを多様に楽しんでいた。
- ・江戸後期の名所記などからは、年間30以上の季節の景物とのふれ合いを楽しんでいたことがわかる。



「紅都飛鳥山花看之光景」溪斎英泉，北区史資料編

季節	景物	江戸名 所花暦	東都 歳時記	名 所 数			
				その他	寺 社	園地等	
春	鶯	4	4	5	3	2	0
	梅	10	12	19	6	7	6
	椿	5	3	6	2	4	0
	桃	5	5	8	4	2	2
	桜	35	48	61	11	49	1
	梨花	3	2	3	2	1	0
	山吹	3	5	7	1	4	2
	すみ	2	0	2	2	0	0
	藤	2	4	5	3	7	0
	つばき	9	6	10	3	7	0
夏	牡丹	4	8	8	2	5	1
	如う	4	10	10	8	2	0
	若花	5	6	7	0	3	4
	菀	1	0	1	0	1	0
	卯	3	5	7	1	4	2
	芍	2	3	4	2	2	0
	橘	0	2	2	0	0	2
	水	1	0	1	0	1	0
	合	2	5	5	5	0	0
	欽	1	1	1	1	0	0
秋	螢	5	7	9	8	1	0
	蓮	3	8	8	6	2	0
	涼	2	12	12	11	1	0
	ぎ	1	0	1	0	1	0
	顔	1	2	3	0	0	3
	草	1	1	1	0	0	1
	萩	2	10	10	0	9	1
	野	0	5	5	5	0	0
	月	5	14	16	15	1	0
	虫	3	11	12	11	1	0
冬	菊	2	6	7	0	0	7
	膠	0	2	2	2	0	0
	木	8	14	18	2	15	1
	葉	1	0	1	0	1	0
	菊	1	0	1	0	0	1
	仙	1	0	1	1	0	0
	等	1	0	1	1	0	0
	橘	1	0	1	1	0	0
	松	3	0	3	0	3	0
	野	1	0	1	1	0	0
計	鳥	3	4	5	5	0	0
	雪	9	20	23	14	9	0
				312	138	138	36

(資) 江戸の四季の名所について：樋口忠彦ら，第16回日本都市計画学会学術研究発表会，1981

植栽も混植が一般的



上野：春秋遊楽図屏風



飛鳥山：名所江戸百景



参考：
銀座通植栽

場の都市的コンテクストに応じて デザインの「格」を考慮する必要がある

整備 タイプ	デザイン事例 デザインの「格」 高 (formal) ← → 低 (informal)			「格」の決定要因
並 木				・線形(連続性) ・樹種の単一性 ・樹形の整形性
流 れ				・直線性 ・護岸形状の明快さ
噴 水				・中心性 ・受皿境界の明快さ

植栽デザインの「格」(フォーマルさ)



デザインの「格」

【高】



【低】

都市においても地域の 自然環境との関わりが 個性的な風景を形成してきた

京都・白川

鹿児島・知覧 山口・萩



(資) <http://sukikago.hp.infoseek.co.jp/0603tiran/tiran02.htm>



(資) <http://www1.sphere.ne.jp/tabinet/ken/k09/hagi.html>

生活の舞台としてのデザイン



美しく整ってはいるものの
「地域」や「住民の生活」を
読みとることは難しい

【整った美しさ】



整った美しさという点では
問題があるものの、住手の
丹精を感じとることができる

【丹精の美しさ】

生活の舞台としてのデザイン

極論すると、結果としての景観
のおさまりよりも、形成、
動的な管理プロセスの豊かさに
「美しさ」を求めつつある？

